



秋庭 繁 議員

市長の選挙公約「スリーゼロ」について

問 ①「待機児童ゼロ」といいながら、0、1、2歳の待機児童が15名もいる。第一希望がかなわなく、断念した人を含めると25名の待機児童がいるのに公立保育所（第一・第五・関戸保育所）の廃止は反対である。

保育の質の向上に欠かせない公立保育所の正規保育士は50名足らず、残りは臨時または非常勤保育士である。採用計画について伺う。また、②平成27年

276人、平成28年273人、平成29年295人、平成30年224人の介護施設待機者がある。第7期介護保険事業計画では80床の計画をしたが、「介護施設待機ゼロ」はいつ、どのように達成するのか。さらに③「医療難民ゼロ」、④65歳以上で免許証の自主返納者等にぐるりん号の回数券、愛・あい号のチケット等の一人1回限りの交付が始まるが、毎年交付する「シルバーパス」創設についても伺う。

答（市長） ①待機児童数は減少傾向にあり、施設の集約化により定員増につなげることや施設の老朽化による安全性の問題等を判断し、今回の経緯に至った。②地域の課題やニーズを把握し、第8期介護保険計画の策定を行っ

ている。施設整備に関しては、介護サービス給付費と介護保険料への影響を勘案した上で検討し、介護施設待機者ゼロを目指していきたい。③医師不足の解消については、引き続き県、医療機関に要望するなど解消に努めていきたい。

答（総務部長） ①保育士の採用については、一昨年から採用計画に基づき採用している。④継続的な交付については、財政負担も考慮しながら慎重に検討したい。

保育所から始まったまちづくり
(第五保育所)

小山 高正 議員

学校教育について

問 不登校児童への対応には多様性を持った教育が必要である。児童・生徒の身の回りで起こる諸問題の解決にはスクールソーシャルワーカーが必要であると考え、以下の項目を問う。

①市でネットスクールにどうしても通わせたい方がいたとき通わせることができるのか。

②スクールソーシャルワーカーは地域の実情をわかる方が適任と考えるがいかがか。

答（教育長） ①希望する子どもや家庭があった場合には、教育委員会が情報を提供して学校、家庭との連携を密にするため協力していきたい。②その地域に精通した方や学校に勤務した方等、地域の実情を理解していることは、大変大きな武器であると考え。



市民生活について

問 高齢運転者の免許証返納後について①生活インフラの整備をどのようにしていくのか。②

日々の生活に支障がないような地域の「小さな拠点」づくりが必要だと考えるがいかがか。

答（総務部長） ①10月からぐるりん号や愛・あい号の利用券の交付を行う予定である。また、高齢者の外出支援として、高齢者通院等交通費助成などの事業を行っている。

答（健康福祉部長） ②コンビニエンスストアは、現在でも市の証明書発行や公共料金の取り扱い等、まちづくりに欠かせないインフラと捉えている。また、地元企業とは高齢者等見守り活動に関する協定を締結している。今後もニーズを把握しながら進めていきたい。